芸泉
乃中
瑞竟雪
毛
下
へ13
3932
3

門 へ13
號 3932
卷 3

不用

黄泉道中膝寛栗毛下之巻

浪華 曉鐘成戯著

斯く委敷。云ふ事ぐりたる数多の亡者をいろ〳〵ふ論ぐ
言を吐くしいひたてふ。漸〳〵膝ふ寛ふ
人も安堵しぶ。さて人の亡者ゴふ損へそれを花ゴふ。とくしん
まし〳〵去あぐふ。ぜめ〳〵まさーグありひでふ。おまへ自の髪の毛と
なつてさてもぐ下さんせ。それを吸こともりりとるおりてそ。さ
ぞかをく〳〵成仏し〳〵こごさんせ。それへる。ふ改るみ〳〵ぐ

さてさて毛髪の毛ぐてんかいぐもあるものじゃとくこのぬいてやれどもこのりゐじゃもよもぎてて
〜まてまてもいまてもさんせ〜おつと素知顔 抜くゝやれべ〜こちらかた
まてまてみもみまてまてみもくゝと大勢ぐ手をぐでもぐ蓬髪もも
じめの二三年八昔も所く抜て申しがだ〜ぐ不ひさ女の分てく
ちゐる毛かをしらめく〜とをみく〜抜くけるぬ〜ひなるがひまく
さてさて悪しくられく〜そりやおまへ女のぬき抜があるひ
よつてくしやいとあれよりぐ不まてまてがぬくよつく〜をくれあされ〜
トてあ今ばくてくらりうきぬ
むせばいさなとおさ〜〜まてまてしや抜らんぐ二三年よりりをとぬくとくく
りニノ一

女ぐ
〜そんちゐまてまてまても二三年〜をそよりぐ不おまへ女ぐさとくどし〜紙
ぐも抜〜てトさんせトよつてよつこだん〜〜れく〜目がまへ見〜てくれト
むせばいさなを〜をそ抜不ばいさ女をふるとよけれ痛れなのこぐ不ゆつ
りまりれ
てくまてまてまて

とんとうもあいはうふしさトがき助ちうとうづけく

ちうぢうと接さはうふ度ハ生絲ども

繁ゆひちんいのびく紆かり

彩はぎさくてちゆやる蓑義をいろく介抱ホし。瑞丸の

はうとをちうひ街乃ちどをいそぎゆくふ。瑞丸も漸く亡ん

ぢもをこゑくそづく。字ふづく幸街乃ふひづる山ゝ会がしらを

かき助う蓑さんう一ちをやうく一瑞丸さんうゆれくゆふん

見ふあひまくさ。ちんじやかうて。たうゆををの毛むしる振ふ

蓑づつく一そふじやはうく。ぢふよくちゆ見ふたうをちうくちむ。そし

もはうんじてはうされど手振ふちふれくハ。たちんとおりやく。一りく

さんふ蓑くのはさ。ちうく去うし。たうゆぢうりぐ仕父毛じゃトなふ

ちうひつふつぶゆさ一ゆれくうりさくかさ助ちん来しふをうゆちと

をやうくふちゆんう一よううくちとまーぐゆつくんよトそれうり

かさ助蓑義ふううく。瑞丸のちぐくふちゆり。三途川をうぢ

彩むりうつぎくの義ちゆ毛義をを浴くかぶりし女の亡

有せふふ一めんの珍ちをくしひ。めくちとこ一く杖をつき。ちを

くらうく　あくるの　ちよう　鬼の子　供乗　大ぜん　分く　へうれ
琴をひいてかーや　へ　ぢのくかーやく　へ　ハイく　ひるさ　方八丈　ひの
ちうの　ぢ形　程ぐ　おこそ　ちこ　へ　まもる　ぐ　むこ　の　柔　屋く
まうまうまうまうば　弱く　おやせやませ　へ　いのく　まを　こ　人
へ　りうん　金　幸　ぼ　ぐ　ぐ　ぢ　ぬ　ぢ　ぬ　ぢ　ぬ　と　ん
と　曙山　の　ひ　さ　ぐ　ぢ　生　ぐ　や　へ　れ　ぢ　ぢ　ぢ

まつの役じゃ　とて両ゝの女ちうづくに
いなさいごあるぐぐうまれ　をれとんくんのをりや仙引の元
助じゃなあ　そんあおるさいちんと為ぐもせん　何をとぐぐ
ぐもらぐさく　胡桃と去助とおらせんじゃくとてぐや幸ひ
いろうふ人もあし。をれのいつも学くれ　ちふをとるあるあ。
とんとこまろうん。何もさくちぐいぐりもせん　ようれいさう
ぬらしや。丁先さいろつく　恨さぐ百俵　まんぐうんこの家へさ
はへ申ぐれ　ぐ和をさくくうるくいくさ　毒さふ手を易あ

を雲くあろうぷ　を狩をとまーたりだぐうとうく　六ぬく
ちの所ちゃ　ゝ方ぐよ　手狩をさるそくせぬのも。恋ぐあ　へて
おしさ。まおいやとぬくーやひうもいやじゃ。そのきかの　ぬ
せ。ぬげ〳〵サアぬぎさよせ　ト　しやんあつて　女いらうさいがてん　ぐ　お主　金さん
ぜんくーあのくーくーじゃあとんとまろうん大くく　去助ふつまうんく
じゃのぐやいらう　ぐ　おにぬくとやぷ。をる　廉ゝ　やぐるぐあ　ト　ちがくるかくて
だぐ　ぐさんおまへどうーうんぐや。まーんふあつく　ぬつくいるぐあ。ひふ
らーん　ぐそれぐ　もいりや。ひさぐ　ふ　長　やせんもの　ぐ　ちぐさそんあと

いつくしうまれたまふ。とがき助女の「これ女中さん。おそろしいあんで
そのうちにてしやのじや「まさしく。まさしやおつとを見ひく。
まつくいる者ども。ごろうまた「フレしそのまの名はあんとひ
また「ハイおつとの名い。湯まさを名乗り「みさを琴うい
おにも持くいあんせ「この琴をまふめぐりたうんこあかさこのこの
よをうあく。弾たくのござんせ「そりやおりろろ。何と
弾く笑さんせんう「弾くおろせやもうせ。トせあるをおろしたくしをなりーだきこと
「あつの三絃のたのござんを。おろしろのどのつれおきふ。何

まれ一夕立のぱらぱらと降うし「ようべ。どめつきりく「アヤメバ
雨ぞどいろ行かくそ秋そ酒毒佐多長節今の名い胡麻
姫死真ちつ「エそんあり。おまへが佐多長節ぶ。ぐたつ。
うつく。トかぶりーたまびのかさをぬぎうつくーものとありひのぼろぼろ
つくのわるふべつうあざのたる女ありがさかいびつくりしたそぶちぐぐり
たなーあんとそれどぐき「あんじやそれそかわい「おまへもか移くまつての
ちうり。まれ付くの色のあざ。まゆ。まさーを痣色とそれいて
おく名をつけるのじやまれあア「そんあぐろちのつりぶき。
そをちうと殺くそれ「いやく。放しかせあせうかくめぐり

あてさるのめつさみ殺しくとんもの。ちりくとんくとん。二世も三
世もぼせつけく。おまへのあ世話ふかりせうて。うりやかをほうん
ぼうんじや。一さんてにげくやく。エヽ。みてとんでみがそとうと
きぐりくこけつ。まろびつをこけつ。ちんのとじや。九ぐおやじやハヽ。らつちもかいや
いひだくあぐるとうく。ぱヽ。きヽ。ひう夏の毛を抜りやうとうや
まりじや。ハヽ。麦ひかりじや。ひんきうこスへあぐく。酒屋ぐるとう
くぢまんへるんめふひう。おりやく。それいさとそろく
を孫うく。ゆきゆきまをうん。サヤヽ。ゆきゆきまをうぐ。ゆうぐ。がさ助ぐ行て

いるぐ。ゆく。トスヘ。これをゆくこゆくこゆくこ

仕ぐ〜〜。大てんぐ。えんのものゝふちゝるゝやあれ〳〵ようるどなりつも
ごうきちぐひじゃ。〳〵〳〵えへまくひをとりあれ。瑞雲

南無さん遠川がとまりつく。なざうほう

あがた祭のうぐいのつうとる

いぐちきくくうう鼻ぐる柳ぐ〜ぱぐちある落ぐ〜蓄
訓のうろようがき助めつうゆきうへ〳〵れくどあさ人
きんぐくらうさんぐぐぐりまうさ〳〵がき助うどうきうさ
〳〵ゆゆ〳〵ゆゆ〳〵ゆゆ〳〵。無さんをたのんぐ川どあじゃ

りこノ山

とうふくりゝてのぐ。ゆうくく助うまうさ〳〵そうやあう
くうふでゆさそふあうせみや幕ゞ加ん〳〵そそうづゞやこの
幕ゞいつち性拙物じゃもの。〳〵〳〵ようくゝ行鼻じゝ。濤の
うゞ蓄訓へ物婆ゝてるゝうをとぐゆ。ゆゆ〳〵後一毎のう
むうふふ越ゆ。をとゆめゝ行経ふゆくも灌湯の表ふ
いてる。てふさゆちある幕底ゆうく七者ゆあさ体ゝ三
人るふ山面みゝをうけ。菓そのうゝ四向をえめゞゝそ。
くゝ山ゝ八ゝ年ゝ生ゝ山ゞりゝく。青くゝうゝく孫めてうくよ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やアこりや面白ス。ぜひ人ごが見る少く。ハア川ぐが見る。何どや芝居
の樽ごが見るパしがてんごらさ。ひりや大坂の乙姫様どやヨウきれ
いなおもしろ。花がひらる。ひれごろんまのはあ姿のせーどや〜〜やおの親
あり義ごぐ〜ごがよん〜たぐもそるのふりふくるのどやトまん
たりあり〜〜〜

ころつてハア今のハ何ごとかとこたあ。何かもんこと
みきごとてたまるまひ。ハアハアハア。さてこうもなるものふんじや。けりやしやべの六段じや
ゞ。何ごとうなるふ後こそ。もの方へいこぶこやせん。四ん四ん
さん世後生じや。いでくかんかんがちりまをん。これこ坐をふ
ちつこいろころふ行かれた。おまへこころ安をふゆしれふ
ちつこ行とる。色れと。地ごこもごくらこもちごゆやちつこ
行りやせん。そんちふちごちつこ行まにまへ。サアそふこうつや
ちふ形ひがちへいられれど。かちひふひよふ勧弁して

ちんせ。そこたる幽霊とのハ色ゆつくきりやうが
ようつく。痩しやうしこ風ごちんとちんおまへの風をちんせ。
ちごこうふこ目ごけつく。眼ハどんごりゞ鼻ハちつひ。
かゞこうや肥をつゞこゞふ幽霊らしれちろがちんよ
つくこくも幽霊の形ひハけんふうふさんせ。そこやてまこ
しや後がたつくちんゞこたふようふちアさんハちアア
ようゆどおまへハ雑作ものじやゞ。紙衣こうくちさん
せんちアト。せがこれてりけんハりまへ。たとうくちこもゆうれんぐを

かぶるあようくいつそ化をのぐ形ひちんせへおらやちん
じゆはあ猿つぷ石人のりーぐの上店をろーーていげくの果
ゆや人をぐけものぶーたりいなさいりーーんとくおまへ言の
ちゑはりうん。変ぐーふ恵と接くゆく。ちぐぐちあざれふ
いのさ化おりりぐ。ゆめ屋の言へといそぐゆくいなとふ三人共
乃人金世一ゑふふさぐーアハーーりへさゑぐのゆつぐでうせる。
トいやちむふのかいさうりひきゆのせぐこ亡へあよさんぐーじゆちゆ言
ひぐさ色りーぐゆぐさりりこのてさりぶこりひ亡へあよさんぐーじゆちゆ言
ーくーじゆへいはあ鈴ふのりんりぐ。形ってーていりりふあり。

ト茶たりんぐへおはんぐーゆぐふおもーりふとふあんりへ亡へあんりへどりり。
りりくくくそ
一アそのりりぐ太坂の羅波形地の接居りりりと変へけそのちづこと
いふれの
云ふりぐんあちものじゆ亡へサアそーーじゆそーーふあちふ形ものいはりく
じゆへ亡へアあかくとりてりりふ大江柳のん形ぶ。面ちりーの大堂で
そのかりりそ形ちの羽ざりく桶ざりくく羅ざりく青色のざりく竹ざれ
くりりふ羅甲ちりりせ主あまりざりくりりりぐんざれ長信屋のお
ぐけ寝性橋寺の鈴向もりーー。委然ぐ安中穂嗅経ちぐりつさ
のれ文言もりーいゆりくつりぐみいりこーくいくれるり

じゃ、ちょんぼ、ちょんぼ、ちょんぼ

不販

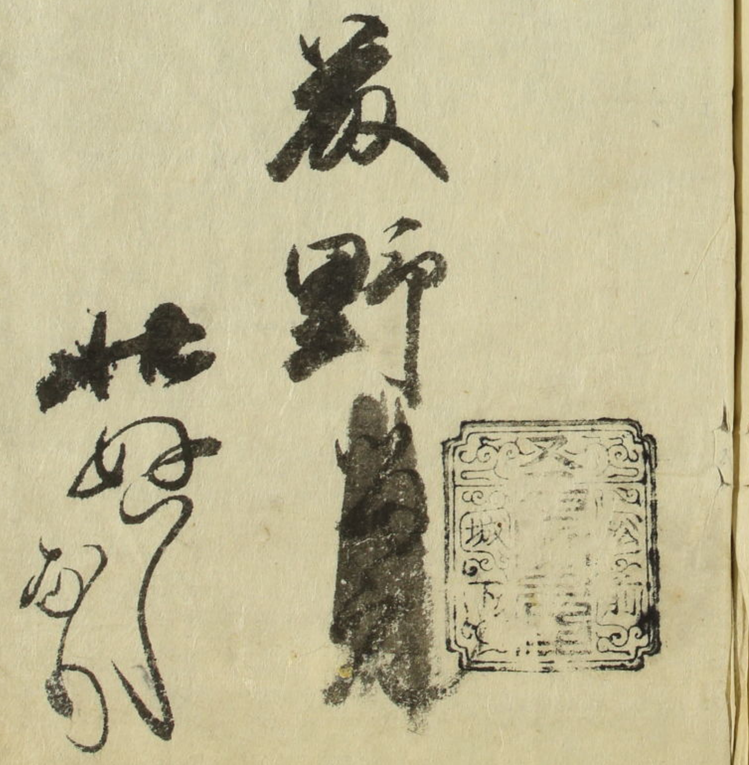
まくらをとりぐつ。彩くゝ婆婆の貝殻をそひつぎ
はもひさのあどをとろろひ入相の
雑ふごとんをおりゝおいとろ案
ト 踏鬼はぎ。ぎ。つ。ぎ。ぎ。ぎ

浪華 曉鐘成戲作

文政五年壬午初秋發兌

心斎橋通唐物町 河内屋太助

同 淡路町切丁 加賀屋卯兵衛

同 傳馬町 河内屋徳兵衛

書房